



北海道大学

北海道大学 社会科学実験研究センター 共催
廃棄物資源循環学会 北海道支部 後援

日本環境心理学会第13回大会 公開シンポジウム

河川でのポイ捨てを減らそう！

環境心理学の知見を活用した社会実験

環境省モデル事業速報

講演者：森 康浩（宮城学院女子大学）

講演者：中俣 友子（東北文教大学）

企画・司会：大沼 進（北海道大学）

深刻化するプラスチック問題

脱プラスチック文明へ待ったなし！

- 循環：最後は（土に、水に、自然に） “還る” こと
- プラスチックは“還らない”

将来ではなく

「今すぐ行動を！」



『容器包装の3Rを進める全国ネットワーク』資料より無断転載

ポイ捨て：それ以前の問題なんだけど..

図1 街なかや河原のプラスチックごみが、こうして川から海へ流れ込む



『容器包装の3Rを進める全国ネットワーク』資料より無断転載

ポイ捨ては良心・道徳心だけの問題か？

- ポイ捨てをするような人に、善意に訴えかけるだけでは不十分
- ポイ捨てをしやすい／しにくい『場』がある
- 非意図的に発生するポイ捨てもある

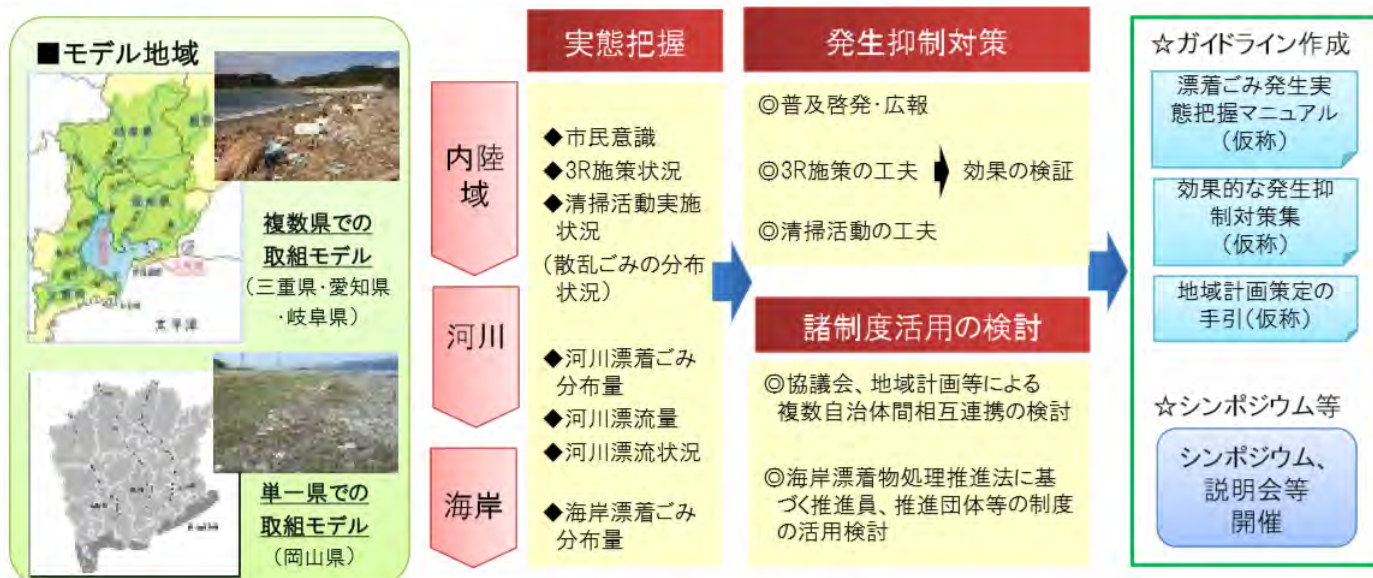
➔ 環境心理学／行動科学の知見を使った現場での社会実験が必要

環境省「海洋ごみ削減のための複数自治体等連携による発生抑制対策等モデル事業」

海洋ごみ削減のための複数自治体等連携による発生抑制対策等モデル事業

より一層の海洋ごみ削減のためには、その回収・処理の継続的な実施に加え、多様な主体が連携した**内陸域を含めた広域的な発生抑制対策等を推進**することが非常に重要。

モデル地域を選定し、海洋ごみにつながる内陸域、河川での散乱、漂流、漂着ごみの実態把握、及び発生抑制策の検討及び実証実施を通じて効果を検証(平成30～32年度)。



成果を全国に横展開し、広域的な発生抑制対策を推進

< 出典 > 環境省資料「海洋プラスチックごみ問題に係る我が国の取組について」

https://kawagomi.jp/img/smit4_wadai6env.pdf

本シンポジウムのねらい

環境省事業における社会実験速報

- 何をやったのか、どのような結果だったのかも重要だが

その前に、そこへ至る道のりとして

- 現場の中でどのように手がかりを見つけ
- どのように社会実験の計画を思いつくに至ったのか
- 何に注意すべきなのか（すべきだったのか）
- そして、どのような気づきを得たのか

といった現場ならではの実体験を語っていただく